

「知らせなければ何事も始まらない」

校長 門脇 伸也

例年よりも暖かな春の到来に、校庭を彩る花々は色鮮やかに咲きほこっています。木々は新緑へと移り変わり、登校してきた子どもたちの表情も、明るく生き生きとしています。令和5年度が始まりました。

第45回入学式も滞りなく終わり、小学部8名、中学部4名の新生を迎え、令和5年度は児童生徒数36名で始まりました。そして、教職員11名が異動や退職となり、新たに16名の方を迎えての新体制です。

世情では、新型コロナウイルス感染症が「5類へ移行したらどう変わるのか」と話題がつきません。この状況の中4月中旬には東京都の感染者数は、ゆるやかながら右肩上がりとなり始めており、第9波の到来もありうるとまで言われています。令和5年度は、コロナ禍の三年間で滞った教育活動を令和6年度へ向けてどのようにして復旧していくか、試みていく一年間となります。適切に感染症対策を行いつつ、学校公開、授業参観、行事等を実施していきます。いくつかのハードルを超えていくことになると思われます。

さて、新宿養護学校には、校長、副校長、主幹・主任教諭、養護教諭、教諭、講師、会計年度任用職員、事務・用務主事、栄養士、給食調理員、スクールバス運転手・乗務員を合わせて60名を超える「教職員」がいます。一人一人の教職員が役割を果たしていくためには「今、何が必要なのか」情報を共有することが大切になってきています。人は「知らせない」と動けません。組織の中で「知らせていない」ことを、なくすことが急務となります。

例えば、感染症対策について、本校と通常の公立小中学校との違いを知らせ、「新宿養護学校は、なぜ感染症予報対策を継続するのか」「こういう理由からだ」と「なるほど」と理解し、感染症予防対策を適切に行えることが大切なことだと捉えています。

本校は規模こそ小さな学校ですが、児童・生徒が36名、教員の数は32名、一人一人の児童・生徒に一人一人の対応ができるほどの教員がいて、「教職員」となると60名を超えます。

令和5年度は、とりわけ情報を共有する時間を大切にしつつ動き出しています。

最後に、世界最大のスーパーマーケットチェーンであり、売上額で世界最大の企業であるウォルマートのサム・ウォルトン会長が記者会見のエピソードを紹介します。

「成長の秘密は?」と聞かれた時、彼は「2つあります」と答えました。「1つは社内における良好な人間関係だ」。2つ目は何か。「正社員からパートまで会社の情報を知らせたことだ」

令和5年度の本校の教育活動へのご支援ご鞭撻を今後ともよろしくお願いいたします。

校庭に咲くマーガレット

花言葉は「優しい思い出」

